

日ごろより、神明福祉園の運営にご理解・ご協力をいただき、誠にありがとうございます。

本号で第 170 号を迎え、第 1 号はどのような内容だったのだろう…と思いながら、改めて神明福祉園の歴史の深さに、気を引き締め直したところです。

神明福祉園では、近隣地域の皆さんにご協力をいただき、毎週古紙回収活動を行っています。先日、大変ありがたいことにお預かりした古紙の量が多く、周りきれなかった分を私単独で回収に伺う機会がありました。ごく短時間・短距離ではありましたが、こちらに来て間もなく 2 年、恥ずかしながら初めてリアカーを引いて伺い、利用者の方が普段どれだけ重いものをひいて一緒に回ってくださっているのだろう、と少し実感することができました。

“相手の立場に立つ” ことはお気持ちを知ること、必要な支援を提供することにつながります。今回のように実体験を通して知るほか、日ごろどれだけ話しているか、職員間で日々の出来事をどれだけ共有できているかでも変わってきます。

それでも、相手の立場と全く同じ状況になることは現実的に難しく、だからこそ少しでも近づいて理解しようとすることが大切だと考えます。今後も、職員皆が様々な経験や研修などを通し、相手の立場に立ちながら、皆さんにとって必要な支援を提供できるように努めてまいります。

(記：阿部)

N.O. 170  
令和 4 年 3 月 18 日 発行  
発行者：神明福祉園  
発行責任者：照井智幸  
住所：〒121-0057  
足立区神明南 2-6-18  
神明障がい福祉施設内  
電話：03-5682-5370  
FAX：03-5682-5665



## 研修報告

### リスクマネジメント研修

2 月 8 日、3 事業所リスクマネジメント委員会主催によるリスクマネジメント研修を行いました。今回は、事故報告書作成に伴う研修でした。

起きてしまった事象に対し、今後どのような考え方や対応をしていく事で、類似する事象を繰り返さず、より良い支援していく事ができるのか… 客観的に物事を捉え、且つ、支援方法やその方法の意味を支援者がしっかり理解し、チームとしても情報共有をして、実行と振返り、確認していく事が大切であると改めて思いました。

その情報共有の大前提として、“伝えるタイミング” や “相手に分かりやすく要約出来ているか” が重要になってくる為、仲間とのコミュニケーションの中でその技術を進化させていきたいと強く感じました。

(記：熊田)



# 福祉園の冬



## ★1 グループ 【初詣&バレンタイン】

今年1回目の体験活動で「初詣体験」を行いました。支援員手作りのミニ鳥居・お賽銭箱・おみくじに、皆さん興味津々！基本の作法に則ってお参り体験をしていただいた後は、それぞれのお願い事を絵馬にしたためました。また、バレンタインには調理活動でチョコレートマフィンを作りました。美味しく焼き上がったマフィンを楽しんでいます。（記：神野）

## ★2 グループ 【節分】

2グループでは、2月3日に節分を行いました。支援員が赤鬼と青鬼にとなり、豆の代わりのカラーボールを「鬼は外～福は内～」と元気な掛け声と同時に鬼に向かって投げられていました。皆さんの元気な力で、無事グループに来ていた鬼を退治することができました。（記：酒井）

## ★3 グループ 【クリスマス】

3グループではクリスマスにパフェ作りをしました。トッピングを個別に分け、消毒の徹底等、感染対策をしながら取り組みました。ニコニコしながら山盛りのパフェを完成させる皆さんが印象的でした。（記：神田）

## ★4 グループ 【豆まき】

4グループでは2月3日の節分に合わせて、豆まきを行いました。鬼に扮した職員が部屋を歩き、掛け声に合わせて豆を投げ、厄を追い出しました。鬼役の職員の姿に笑顔が出る方、怖がる方、早く豆を食べたい方等、様々な様子が見られ、コロナに負けずにささやかなイベントを楽しむ事が出来ました。（記：木村）



## お知らせ

## ～information～

★春季休園日：3月31日～4月1日（2日から通所再開です）

★入所式：4月8日

※広報誌における写真や記事は、個人情報保護法に基づき、ご本人、およびご家族の同意の上で掲載しています。

（広報担当：神野・熊田・佐藤・宮路・石井）

